

1 川畑 孝治 議員（政友会） 【一問一答】

(1) 多子世帯の子育て支援を拡充すべき

- ・4人目以上の人数に合わせた子育て支援の拡充をすべきでは。

(2) インターハイに向けた取り組みは

- ・2018年の「福井しあわせ元気」国体を踏まえどのように取り組むのか。
- ・コロナ禍の大会になると考えるが対策は。
- ・来年開催のワールドマスターズゲームズのプレ大会も含め、選手・役員・関係者に対する、観光や記念品土産品などの取り組みは。
- ・市民への周知・協力についてどのように考えているのか。

2 佐藤 寛治 議員（政和会） 【一括】

(1) 小・中学教育について

- ・デジタル教科書導入の考えは。
- ・デジタル教科書導入後は紙教科書の使用を廃止するのか。
- ・デジタル教科書のメリットとデメリットをどのように考えているのか。
- ・教員のICT能力や指導力によって授業内容に差が出ることも考えられるが、その対応策はどのように考えているのか。
- ・教科担任制の本格導入に向けた対応は。
- ・教科担任制のメリットとデメリットをどのように考えているのか。
- ・教科担任制導入の課題は人材確保が重要だと思うがどのように考えているのか。
- ・学校教育においては、OODA（ウーダ）ループの考え方を取り入れることも必要と思うがどうか。

3 辻 人志 議員（政友会） 【一括】

(1) GIGAスクール対応について

- ・GIGAスクール構想の実現に向けた令和3年度の具体的な取り組みは。
- ・タブレット授業の導入に伴う教職員への研修体制と具体的な研修方法、時期について伺う。
- ・GIGAスクール構想に対応する、子どもたちの安心安全な健康管理対策を具体化しているか。
- ・家庭におけるネット環境などで格差が生じないように努めるべきと考えるが、今後どのような対策を講じていくのか。
- ・教育の基本は人と人との関係であり、いかなる場合も対面教育を基本にすべきと考えるが、見解は。

(2) マラソン大会について

- ・今年の坂井古城マラソン大会の概要は。
- ・選手・役員スタッフ・沿道の応援など、大会に関わる様々な人たちの安心安全を確保するため具体的にどのような対策を講ずるのか。

- ・北陸新幹線敦賀駅開業後に計画されている「ふくいマラソン（仮称）」の基本計画案による大会概要は。この大会運営に坂井市としてどのように関わる予定なのか。また、坂井市への波及効果をどのように考えているか。

4 後藤 寿和 議員（志政会） 【一問一答】

(1) カイモンカード

- ・カイモンカードの開始時の発行枚数、加盟店舗数は。また現在の発行枚数と加盟店舗数は。
- ・免許返納者と歩こっさプラスに対して行政ポイントを付与しているが、今後はどのような事業にポイント付与していく事を考えているのか。
- ・カイモンカードから、購入率やこういったところで買い物したかななどのデータを取り、ビッグデータとして活用する事や、スマホへのアプリ化を含め今後バージョンアップさせることは可能なのか。
- ・カイモンカードのポイント付与を観光施設などの入場券でも付与する事を考えていないのか。
- ・戸越銀座にある坂井市のアンテナショップへ買い物する人たちにもカイモンカードを普及させたらどうか。

(2) アフターコロナの観光需要回復について

- ・令和2年7月22日から始まり、令和2年12月28日の一時停止までにGo To Travel事業にて、坂井市に訪れた観光交流人口は。また、コロナ以前の昨年比の増減は。
- ・アフターコロナ・ウィズコロナの背景の中、感染拡大防止と観光需要回復について市の所見は。
- ・地域に眠る観光資源を磨き上げる取り組みを支援して、観光需要の回復・地域経済の活性化につなげてはどうか。
- ・インバウンド客に対しても訪問するきっかけになるが、この時世がら福井県民に対しても何度も訪れる観光地として親しまれるようにするためにも、地域活性化推進にVR・ARを活用したデジタルコンテンツの導入をしたらどうか。

5 渡辺 竜彦 議員（志政会） 【一問一答】

(1) 坂井市のこれからの成人式の在り方は

- ・3月21日に開催される成人式の現在までの出席者を含めた現状と、新型コロナウイルスに対する感染症対策はどのように行っていくのか。
- ・2022年4月1日から行われる改正民法の施行により、成人年齢が18歳に引き下げられるが、2023年に開催される成人式はどのように行っていくのか。

(2) 坂井市の災害時要援護者支援制度の取り組みは

- ・現在、本市にはこの制度に該当する人はどれくらいいるのか。また、どれくらいの人が、災害時要援護者台帳への登録申請手続きを行っているのか。
- ・災害時要援護者台帳への登録申請手続きを行っている地区と、行っていない地区は、それぞれどれくらいになるのか。

- ・地域支援者の現在の登録状況はどのようになっているのか。
- ・自主防災組織の本市の現状と、取り組みはどのようになっているのか。
- ・コロナ禍における、福祉避難所との連携はどのようになっているのか。

6 山田 秀樹 議員（志政会） 【一括】

(1) デジタル化と通信環境の充実

- ・Wi-Fiは社会資本と考えるが市長の所見を伺う。
- ・コロナ禍後のデジタル社会について所見を伺う。
- ・デジタル社会における関係人口創出について所見を伺う。
- ・市が運営する無料Wi-Fi「Sakai Free Wi-Fi」の今後の展開は。

(2) 道路除雪状況の「見える化」を

- ・GPS除雪車運行管理システムについて所見を伺う。
- ・市民の不安解消のための除雪状況の「見える化」について所見を伺う。

7 戸板 進 議員（志政会） 【一問一答】

(1) 道路整備計画について

- ・現在策定中であるとされている立地適正化計画について、予算特別委員会でも説明はあったが、具体的な内容について再度説明を求める。
- ・福井丸岡インター連絡道路、県道福井森田丸岡線に連結する市道の新たな整備計画はあるのか。
- ・本議会において、区域外道路の認定について議案が提出されている。これは福井市の区画整理によるものと思われるが、これらは、区画整理事業中に坂井市と協議されたものなのか。
- ・県道福井森田丸岡線は、県道板倉高江までほぼ完成しつつあるが、末政随応寺線までの完成前に開通すると、県道板倉高江線の道路幅も狭く、交差する南横地交差点においては交通渋滞など、交通障害を起こす可能性があると考えますが、県との協議はどのようになっているのか。

8 南川 直人 議員（志政会） 【一括】

(1) 学芸員の職務と埋蔵文化財

- ・文化庁のホームページによると、学芸員の主な職務内容は、資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用、調査研究、教育普及活動などである。現在市ではこれらの仕事がどのように行われているか。
- ・発掘調査などから検出された遺物などは、どのように保管され研究、分析されているのか。龍翔館や丸岡城資料館などで公開展示されるべきではないか。
- ・東尋坊再整備計画の中で、ビジターセンター設計が計画されており、輝石安山岩などの岩石を展示することだが、地質を専門とする学芸員が必要ではないか。

(2) 夜の観光の創出（夜景遺産を目指すには）

- ・2020年21カ所の夜景遺産が認定され、全国合計は261カ所となっている。坂井市も、ゆりの里公園や丸岡城を夜景遺産としてエントリーできないか。

- ・夜の魅力スポットを目指すサンセットビーチ、ゆりの里公園、丸岡城を結ぶ市内の夜景スポットラインを構築することが大切であるとする。例えば、夜景をBGS（バックグラウンドスクリーン）として夜のミニコンサートなどが開催できないか。
- ・通常の観光に夜の観光を付加し、魅力的に育てるためには宿泊施設が欠かせない。丸岡城下では、「宿坊」でお寺に泊まれる計画が進んでいる。市として応援できないか。

9 近藤 哲行 議員（政立会） 【一問一答】

(1) カイモンカードの現状と将来について

- ・いま、加盟店は何軒か。カイモンカード発行枚数は何枚か。
- ・加盟店が増えない要素はなにか。
- ・市の助成金を受けて新しく店舗を構えたお店でカイモンカードに加盟されたお店は何店舗中何店舗か。
- ・ポイント組合、観光業、農業、工業、市の関係者が集まり将来のポイントを利用した活用方法の勉強会などを開催できないか。
- ・市の職員に1枚財布の中にカイモンカードを持ってもらうことはできないか。使う使わないは別に存在を認識してほしいために。

(2) コロナワクチンと修学旅行

- ・昨年、小中学生はどの方面に行ったのか。また、県外の計画を県内に変更された時、キャンセル料は発生したのか。
- ・コロナワクチンは何歳から接種する計画なのか。
- ・今年の修学旅行はどの方面を目指しているのか。

10 上坂 健司 議員（政和会） 【一括】

(1) 地域まちづくりの魅力向上策について

- ・市民等がふるさと坂井市の郷土愛を醸成するため、そして本市のことを楽しみながら地域を知る、ご当地検定「坂井ふるさと検定」の取り組みはどうか。
- ・北陸新幹線敦賀駅開業を3年後に控え、「坂井ふるさと検定」合格者と連携し、おもてなしなどのボランティアガイドを展開してはどうか。
- ・歴史文化等を生かしたまちづくりや、次世代につなぐために、「坂井市における文化と人づくりの推進に関する条例」の制定はどうか。

(2) 市が取り組むべきSDGsと未来ビジョンについて

- ・SDGsに対する市民の認知度はまだまだ低く一般的には普及していないと感じている。市民協働によるSDGsの啓発・推進体制を強化するための方策は。
- ・本市は総合計画でSDGsの視点に基づく施策体系を示しているが、本市の30年後(1世代先)の未来ビジョン、計画に対する重点推進ゴール・ターゲット、推進体制、進捗状況はどうか。また、SDGs取り組みの課題はどう考えているか。
- ・本市は、SDGsの達成に貢献することを宣言し「ふくいSDGsのパートナー」として登録を行っているが、SDGsについてどのような方向性をもって取り組ん

でいるのか。また、具体的な取り組みはどうか。

1 1 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

- (1) 地域共生社会を目指して、断らない相談支援など住民に寄り添い、伴走する市の新たな取り組みについて
 - ・「重層的支援体制事業」について、断らない相談支援・参加支援・地域づくりに向けた支援の3つの柱をふまえ、地域共生社会の地域づくりについて、住民目線でのわかりやすい説明の発信を端的に。（子ども、高齢者、障がい者などすべての人々の目線で）
 - ・地域づくりに向けた支援として、コミュニティワーカーの配置、相談支援・多機関協働として、相談支援包括化推進員の配置とあるが、その役割と配置された人数は。
 - ・アウトリーチ支援で、ひきこもりを課題に挙げるケースの割合が低下したとのことであるが、具体的な対応について。
 - ・重層的支援の中で課題となったことがより円滑に解決に向かうための、高齢者、障がい者対策、子育て支援などの施策の充実を求める。
- (2) 待ったなし 食品ロス削減の取り組みについて
 - ・食品ロス削減のためのフードバンクについて、県は令和3年度の食品ロス削減推進事業のモデル地区として、嶺南、丹南に1箇所を計画しているが、坂井市として独自の取り組みを。
 - ・市内で活動しているこども食堂のフードバンクを拠点として活用してはどうか。
 - ・食品ロスの約半分は家庭から排出されるもの。日常生活でできる食品ロス対策に取り組むことを求める。（行動指針には市民・事業者の具体的な取り組み例が記載されている）

1 2 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

- (1) コロナ感染症の長期化により影響を受けている中小零細事業所・生活困窮者への支援について
 - ・坂井市の事業者、市民への影響、実態をどう捉えているか。
 - ・そのうえで、例えば、県では福井県版持続化給付金が創設された。それに市が上乗せして給付することも考えられると思うが、困窮している事業者や市民への支援策を伺う。
 - ・国県市の救済制度がある。しかし、制度があっても知らなかったり、届いていないのであれば意味がない。今一度、周知の徹底が必要と思うがいかがか。
- (2) 防災・減災の専門部署設置について
 - ・危機管理の専門家や気象庁のOBのような方を加え、市民が適切な行動や意識を常に持てるような防災・減災の専門部署設置を求める。
- (3) 「抱え上げない介護」の導入について
 - ・介護従事者、要介護者を守り介護制度が維持されるよう、また、病院従事者も含め「抱え上げない介護」を坂井市として積極的に推進していただきたいと思う。所見を伺う。

- (4) R P A (ロボティック・プロセス・オートメーション) の更なる活用について
- ・さらなるR P Aの活用を進めるとともに、削減効果を政策立案や福祉分野など住民に寄り添うサービスに人員配置するよう求める。所見を伺う。

1 3 田中 千賀子 議員 (政和会) 【一括】

(1) コロナ差別防止条例制定について

- ・本市ではクラスターが発生し、感染者や医療従事者、またその家族などに対する誹謗中傷などで心を痛めている。コロナに直接関与していない人等に対する風評被害なども含め、その被害等を防止する、条例制定をしてはどうか。
- ・新型コロナウイルス感染者や医療従事者等の差別をなくすための運動としてシトラスリボンプロジェクトの普及活動に取り組む考えはないか。

(2) 高齢者福祉の充実について

- ・通いの場等の高齢者の居場所づくり。
 - ①コロナ禍の中で、基準を設けて通いの場、サロンなどを開くことができないか。
 - ②厚生労働省によれば「通いの場に歯科衛生士や管理栄養士を配置することで高機能化を図ることができる」となっているが、市の取り組みは。
- ・高齢者の生きがいづくり及び社会参加の推進。
 - ①労働意欲の高いお年寄りの就労の機会を作ることも大切なことであると考えている。市はどのように考えているか。
- ・介護予防・健康づくり (フレイル対策) の主体的な取り組みへの支援の充実。
 - ①元気な高齢者がボランティア活動を通じ、積極的に社会参加し、介護予防にもつなげていくことを奨励、国の交付金を活用した支援するポイント付与制度の検討を行うとなっているが、どのように考えているか。
- ・コロナ禍における高齢者のフレイル対策について。
 - ①新型コロナ禍における高齢者、独居高齢者や高齢者のみ世帯の現状把握について。
 - ②市では平成30年から高齢者に対し、介護予防のフレイル予防に取り組まれているが、最近では、若年層からの食に関連する取り組みが大切だと言われている。市としては、若年層に対し、どのような取り組みをされているか。
 - ③新型コロナウイルス感染拡大防止策とフレイル予防についてどのような課題があり、それに対してどのように対応しているか。

1 4 川端 精治 議員 (志政会) 【一括】

(1) 坂井市定員適正化計画の見直し及び優秀な人材の確保について

- ・ここ数年間、土木職員を募集しても定員通りの採用に至っていない経緯とその分析結果を伺う。
- ・令和3年度職員採用試験が第3回まで行われた経緯は。
- ・職員採用試験に移住・定住促進枠やU I J ターン枠を設け、積極的に優秀な人材を確保し、定住につなげるべきではないか。
- ・優秀な人材確保に向けて、職員採用試験にS P I 能力検査を導入してはどうか。
- ・令和3年3月1日から障がい者の法定雇用率が2.6%に引き上げられた。本市とし

てどのように取り組んでいくのか。

- 本市の部門別職員数の状況を類似自治体や県内自治体と比較すると、保育部門の職員数が多く、一般職が少ない傾向となっている。このような状況下、豪雪や地震など災害が発生した際の初動体制や迅速な対応を鑑みると課題や不安要素があることから、次期坂井市定員適正化計画において一般職員数および構成比の見直しが必要と考えるが所見は。